

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は「質実剛健」「自主自律」の校風のもと、生徒の進路実現を着実に図るとともに、「ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成」に取り組んでいる。生徒の優れた能力を引き出し、主体的に学校生活を過ごすことができるよう、方策としては5つのアクションプランを定めて教育活動を行ってきた。また今年度は、文部科学省の指定を受けたスーパーグローバルハイスクール（SGH）として、最終年度（5年目）でもあった。SGH事業は探究活動の発展型とも言えるものであり、なかでも生徒海外派遣は、課題研究を海外の大学生や高校生に対し発表するという、海外交流を発展・充実させるものとなっている。さらに、探究活動を広く発表する場である三校合同課題研究発表会（富山高校・富山中部高校と本校が合同で開催する）も、課題研究をより深化させる取り組みとして注目を集めている。

今年度の各重点項目の取組状況を順に見ていく。

まず、教員の教科指導力向上については、外部への公開授業を含めた互見授業に、約89%の教員が2回以上見学を行っている。公開授業では、ICTの利用、ペアワーク・グループワークが取り入れられ、生徒が互いに意見を交わすことで、自分の考えを検討・吟味する様子が見られた。このように、授業改善に学校全体で取り組もうとする機運の高まりがみられる。生徒の学習への取り組みに関しては、生徒アンケート結果によると、計画的な学習習慣が身につけていると答えた生徒の割合が60%と（昨年56%）、少し良くなっている。しかし1・2年生においては、まだ身につけているとは言い難い状態であり、指導の改善が必要である。

進路指導では、今年度も地域の社会人や本校卒業生の協力を得て職業理解講座、大学学部学科紹介を実施し、生徒が主体的に自己の進路を定める一助となるような取り組みを行った。またどの学年においても、時期に応じた面接を生徒一人あたり6回程度実施し、丁寧な進路指導が行われたものと思う。大学入試に関しては、出願時の第一志望の合格率は44%と（昨年47%）やや低下したが、生徒は最後まで粘り強く学習に取り組んでいた。

学校生活では、スマートフォンの特性を理解させ、基本的なマナー・規範意識を身につけてトラブルを未然に回避できるよう、1年生を対象に4月、「情報モラル・セキュリティーに係る講演」、集会等での注意喚起を行った。学校不適応傾向を示す生徒に対しては、カウンセリングを受けることができる時間が昨年と比べて倍増したことで継続的な支援が可能となり、強い不安・不適応状態が徐々に緩和しているケースもみられる。また、教員や保護者に向けた講演会、地道ではあるが「教育相談だより」等の配布によるアドバイスも効果を上げていると思われる。

特別活動では、生徒アンケート結果によると、生徒の部活動や学校行事に対する充実度・満足度が今年度も昨年以上を回り学校生活の充実をうかがわせる数値となっている。また、年度当初に休養日を入れた年間活動計画書を作成し、目的意識を明確にして計画的に取り組むよう指導した。

図書委員会の活動では、朗読会などの新しい形態での文化講座や国語科・英語科と連携したビブリオバトルを開催し、読書活動の推進など豊かな人間性の育成を目指した。

グローバル・リーダーの育成については、将来の仕事等につなげて考えている生徒の割合が、SGH対象生徒の45%（昨年37%）とSGH指定後では最も高く、これまでの取組みの成果が表れた。一方、ふるさと富山の魅力の発信については今ひとつ浸透していないところもあるが、今後の探究活動のなかで工夫を重ねたい。

以上、今年度の取組全体については一応の成果が上がっているものもあり、今後、校内でさらに検討を加えながら指導の工夫が求められる。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

教育活動の課題と方策を重点目標ごとに順に検討していく。

学習に関しては、今年度に引き続いて生活時間の管理を指導していきたい。特に1年次には、学ぶ意義と計画してやりきる習慣を身につけさせることが必要と考えている。時期に応じて「強制と任意・自発」を適切なバランスで指導することが課題である。また、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、互見授業や研修会により、授業改善に向けて全校体制で取り組みたい。

進路支援では、生徒を取りまく大学入試に関する状況が大きく変化することから、進路関係の行事や入試情報の提供等のあり方を工夫するとともに、学年と協力しながら全体と個別への効果的な指導を探りたい。

学校生活では、生徒の心の健康に関して教員間の生徒情報の共有による問題の早期発見と共通理解につとめ、様々な生徒に対応できるよう研修の充実を図りたい。

特別活動では、目的意識を明確にして計画的に取り組む、学習との両立を図ることで、生徒が学校行事や部活動に対する充実感・満足感をさらに高めるよう指導していきたい。

グローバル・リーダーの育成に関しては、SGH指定は今年で終了したが、これまで取り組んできた事業のなかで生徒にとって有益と思われるものは継続を検討し、生徒の「探究的態度及び問題解決能力」「国際意識」の育成につなげていきたい。

## 8 学校アクションプラン

| 平成30年度 高岡高校アクションプラン - 1 -   |  |  |  |   |   |
|---|--|--|--|---|---|
| 重点項目  | 学習活動(学力の向上)  |  |  |   |   |
| 重点課題  | 主体的な学習者を育てための学習指導  |  |  |   |   |
| 現 状   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に本校の生徒は授業を大切にし、与えられた課題にもきちんと取り組む姿勢が見られる。しかしながら、近年、疑問点を友人や教員に質問して解決する姿勢に欠ける面がある。この現状を踏まえて、一昨年度より、「生徒の学習意欲を高め、思考や理解を深める効果的な授業」(※以下、「効果的な授業」)を構築するための「授業改善に向けた教員研修」を行っている。今年度以降は、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「授業改善に向けた教員研修」をさらに充実したものとし、「効果的な授業」の研究を学校全体として引き続き取り組むことが求められる。また、生徒が主体的に学習に取り組む態度を身につけるためには、自身の状況を把握できることが必要である。このため、生活時間管理ができる主体的な学習者を育てるための工夫も求められている。</li> </ul> |  |  |   |   |
| 達成目標  | <table border="1"> <tr> <td>①②学習課題への取組アンケート(1, 2年生)における生徒の学習意欲の向上</td> <td>③互見授業の実施</td> </tr> <tr> <td>①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている。<br/>80%以上<br/>②疑問点は友人や先生に質問して理解をした。<br/>80%以上</td> <td>③2回以上授業見学し、「効果的な授業」について研究する教諭<br/>80%以上</td> </tr> </table>   | ①②学習課題への取組アンケート(1, 2年生)における生徒の学習意欲の向上  | ③互見授業の実施                                 | ①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている。<br>80%以上<br>②疑問点は友人や先生に質問して理解をした。<br>80%以上  | ③2回以上授業見学し、「効果的な授業」について研究する教諭<br>80%以上  |
| ①②学習課題への取組アンケート(1, 2年生)における生徒の学習意欲の向上   | ③互見授業の実施   |  |  |   |   |
| ①計画的な学習習慣を身につけ、自己の学習活動を振り返って次につなげている。<br>80%以上<br>②疑問点は友人や先生に質問して理解をした。<br>80%以上  | ③2回以上授業見学し、「効果的な授業」について研究する教諭<br>80%以上   |  |  |   |   |
| 方 策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的な学習者の育成」の達成度が測られるアンケートを実施し、その結果を職員間で共有し、改善点を意識化する。</li> <li>・互見授業を2学期に3週間行う。「効果的な授業」を実践している授業や、TKR・課題研究を行っている授業の実施時間と使用教室を全教員に案内し、参加率を上げる。</li> <li>・「互見授業」等を通して得られた「効果的な授業」のポイントについて簡単なレポートを教員各自が作成する。</li> </ul>   |  |  |   |   |
| 達 成 度   | <table border="1"> <tr> <td>①計画的な学習習慣が身につけている。<br/>60%(1年53%、2年53%、3年76%) 昨年56%<br/>②疑問点は先生や友達に質問して解決している。<br/>79%(1年78%、2年73%、3年87%) 昨年81%</td> <td>③校内の互見授業で2回以上見学した教諭<br/>87.7%<br/>昨年 87.3%</td> </tr> </table>  | ①計画的な学習習慣が身につけている。<br>60%(1年53%、2年53%、3年76%) 昨年56%<br>②疑問点は先生や友達に質問して解決している。<br>79%(1年78%、2年73%、3年87%) 昨年81% | ③校内の互見授業で2回以上見学した教諭<br>87.7%<br>昨年 87.3% |   |   |
| ①計画的な学習習慣が身につけている。<br>60%(1年53%、2年53%、3年76%) 昨年56%<br>②疑問点は先生や友達に質問して解決している。<br>79%(1年78%、2年73%、3年87%) 昨年81%  | ③校内の互見授業で2回以上見学した教諭<br>87.7%<br>昨年 87.3%   |  |  |   |   |
| 具体的な取組状況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生：生活記録票</li> <li>・2年生：スコラ手帳</li> <li>・3年生：未来手帳</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で「授業改善のための教員研修」を引き続き実施した。</li> </ul>   |  |  |   |   |
| 評 価   | <table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な学習習慣については、前年度と同様、1・2年次の定着が低い。3年次については76%と相対的には高い数値となっている。</li> <li>・疑問点の解決については、昨年より2%数値が下がり79%であった。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部への公開授業を含めると、互見授業は約89%の教員が2回以上見学を行った。その中で各教員が主体的・対話的で深い学びを模索した。</li> </ul> </td> </tr> </table>  | B  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な学習習慣については、前年度と同様、1・2年次の定着が低い。3年次については76%と相対的には高い数値となっている。</li> <li>・疑問点の解決については、昨年より2%数値が下がり79%であった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部への公開授業を含めると、互見授業は約89%の教員が2回以上見学を行った。その中で各教員が主体的・対話的で深い学びを模索した。</li> </ul> |
| B   | B  |  |  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な学習習慣については、前年度と同様、1・2年次の定着が低い。3年次については76%と相対的には高い数値となっている。</li> <li>・疑問点の解決については、昨年より2%数値が下がり79%であった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部への公開授業を含めると、互見授業は約89%の教員が2回以上見学を行った。その中で各教員が主体的・対話的で深い学びを模索した。</li> </ul>  |  |  |   |   |
| 学校関係者の意見  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動については、達成度が昨年より若干ではあるが上がっており評価できる。互見授業への教員の参加も積極的であり、評価できる。</li> </ul>  |  |  |   |   |
| 次年度へ向けての課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における生活の中では十分な学習習慣が身につけておらず、1年生は高校生活に慣れるのに苦労していると学年担当者からの声がある。1年次に、学ぶ意義と計画してやりきる習慣を身につけさせる必要がある。同時に社会で求められる自主性の涵養が必要である。時期毎に「強制と任意・自発」を適切なバランスで指導する事が課題である。</li> <li>・「改善しようとしている」と、「改善されていること」は異なる。「効果的な授業」について、適切に評価する事が課題である。</li> </ul>  |  |  |   |   |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

|            |  |  |
|------------|--|--|
| 重点項目       | 進路支援（進路指導の充実）  |  |
| 重点課題       | 高い意識を持たせる進路指導  |  |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学への進学意識は高いが、その目的が明確でないことや成績が伴わないことから安易な進路目標を設定する生徒が見受けられる。文理分けの際に、教科の得手不得手のみを材料にしたり、仕事内容を考えずに資格が取れるからを理由に決定する生徒も少なくない。また、志望大学決定の際に、現段階の学力で入学できそうな大学を探す傾向も見受けられる。高い志望を実現させるため、それに見合う学力・資質を身につけさせ、生徒の進路実現を継続的に支援する必要がある。</li> </ul>  |  |
| 達成目標       | ①面接指導の回数<br>(進路意識を高揚させるもの)   | ②第1志望校合格率<br>(出願時の第1志望合格者の割合)  |
|            | ①各学年とも年5回以上  | ②合格率 58%以上   |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望を踏まえ、生活実態調査や通年成績表等を分析することにより生徒の実態を正確に把握し、適切な面接指導を行う。</li> <li>外部講師による職業理解講座を通して、望ましい職業観を醸成させ、文理や学部・学科選択に役立たせる。</li> <li>卒業生による学部学科紹介を通して、大学での学問を深く知るとともに高校での学習に対する強い動機付けとする。</li> <li>入試問題研究を十分に行い、授業力を向上させ、生徒の学力養成に生かす。</li> <li>3年生の個別指導（教科添削、小論文指導等）を通して、生徒一人ひとりに応じた学力の伸長を図る。</li> <li>校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報収集・分析により、志望校選択を支援する。また必要とする卒業生に対しても、積極的かつ継続的に進路支援を行う。</li> </ul> |  |
| 達成度        | 担任面接 1学年：年 6回<br>2学年：年 6回<br>3学年：年 6回  | 国公立大学前期合格率 44%<br>(参考) H29年度 47%   |
| 具体的な取組状況   | 1学年：新制度入試についての説明やその際に必要な学力を伸長させる方策についての指導<br>2学年：高い志望を掲げその目標に向けて着実な努力を継続させていく指導<br>3学年：志望校についてと受験にむけての指導   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種講座や、添削指導等、第1志望校合格に向けて、学校全体で取り組んできた。進路判定会議（12月）、情報交換会（7月）、入試問題研究会（7月）等</li> <li>出願検討の際に基礎資料として用いる校内模試について、作成検討会を実施した。</li> </ul> |
| 評 価        | A  | C  |
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識を高める面接指導を各学年で実施してきた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりやや低下したが、例年と大差はなかった。</li> </ul>   |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>担任面談がどの学年も6回以上ということで、十分な指導が行われている。</li> <li>今後も国内外で活躍する本校卒業生の話を聞く機会等を設け、明確な意識を持って進路を選択させてほしい。</li> </ul>  |  |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試に民間英語技能検定が導入されるなど、生徒をとりまく状況が大きく変化することから、面接内容等について検討する必要がある。また、昨年作成した面接支援のための「学びの指針」が十分に活かされていないことから、学年と協力しながら活用法を探る必要がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>新傾向の問題等やや出題傾向が変わったので、個々の大学について精査し、それに対応した指導を行う必要がある。</li> </ul>   |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成30年度 高岡高校アクションプラン - 3 -

|            |   |   |
|------------|---|---|
| 重点項目       | 学校生活（円滑な適応）   |   |
| 重点課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・不適応傾向の早期把握と支援の充実</li> </ul>   |   |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの爆発的な普及が、高校生の生活環境を大きく変化させているが、一足飛びに外界と結びついてしまうことへの怖れに自覚的である生徒は少ない。また、社会生活を営む上で重要な、基本的なマナー・規範意識を身につけずに来ている生徒も増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。</li> <li>・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が毎年見られる。その実態と主たる要因を把握し、時機を失することなく適切な支援を行う必要がある。</li> </ul>           |   |
| 達成目標       | ①各種事故の発生件数を減らす。   | ②相談しやすい環境を整えるとともに、スクールカウンセリングや特別支援教育巡回指導、事例相談、学年あるいは全体検討会を活用し、適切な対応を図る。   |
|            | ①交通事故 年間8件未満  | ②教育相談だより発行 10回 スクールカウンセリング 30回<br>特別支援教育巡回指導 10回 スクールソーシャルワーカー面談 3回<br>学年検討会・全体研修会 2回   |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクル安全リーダーによる交通マナー遵守の呼びかけと街頭指導を行い、1年生には交通安全教室を実施する。</li> <li>・情報モラル・セキュリティに係る講演や集会での注意喚起によりトラブルの未然防止。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談だより等を通じて相談体制の周知に努め、相談しやすい環境を整備する。</li> <li>・心身不調の生徒理解に努め、カウンセラーや巡回指導員と教師間、さらに家庭との連携を深め、適切な支援を行う。</li> <li>・担任や学年との連携を密にして問題の早期把握に努める。</li> </ul>  |
| 達成度        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故件数 7件<br/>(負傷・自転車損傷が軽微なもの6件)<br/>(上記被害も無かったもの1件)</li> </ul>   | 教育相談だより発行 13回 スクールカウンセリング 33回<br>特別支援教育巡回指導 27回 スクールソーシャルワーカー面談 4回<br>学年検討会・全体研修会 3回  |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクル安全リーダーによるマナー遵守の呼びかけは、「さわやか」運動に併せて行い、高岡警察署主催のキャンペーンにも参加。交通安全教室(7月)は、高岡警察署交通安全課から講師を招いて実施。</li> <li>・「情報モラル・セキュリティに係る講演」を入学後ほどなく1年生に実施するようになってから、SNSの不適切な使用で生徒を指導するものが少なくなった。集会でも加害者にならないことに力点を置いて話をした。</li> <li>・毎学期末に行う学校生活調査は、生徒が気持ちを落ち着けて書けるよう日程等に配慮し、記入があった案件には迅速に対応した。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育相談だより」を教室掲示し、メンタルヘルスの意義とカウンセリング利用を呼びかけた。</li> <li>・良好な親子関係のためのカウンセラーによるアドバイス及び教育相談講演会要旨を掲載した「教育相談通信」を配付。</li> <li>・スクールカウンセラー等を、相談内容に応じて効果的に活用し、状況に応じてチーム支援会議を開催した。</li> <li>・1学年との個別事例研修(6月)で生徒に関する情報共有化、医師による職員研修会(7月)でストレス要因や心身症への対応、スクールソーシャルワーカーによる職員研修会(1月)で家庭の状況理解や外部機関の活用を学んだ。</li> <li>・入学時のグループ「エンカウンター」(4月)では90%が不安が解消されたと回答、受験に向けて3年生対象「ストレス対応教室」(7月)では80%が満足と回答した。</li> </ul> |
| 評 価        | B   | B   |
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活調査は数値化で評価できないが、しっかり書いてくれるようになってきている。記入があった生徒には迅速丁寧に対応し、話しやすい環境を作り出し、より確実に状況を把握できるものにしていきたい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や養護教諭からの勧めだけでなく、自らカウンセリングを申込み生徒・保護者が増えている。</li> <li>・カウンセラーに来ていただける時間の倍増で、継続的カウンセリングによる不安・不適応状態緩和の様子がみられる</li> <li>・職員研修会や学年検討会で共通理解及び連携が深まり、不適応傾向生徒の早期把握と情報共有がしやすくなった。</li> </ul>  |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォン、SNS、メンタルヘルスなどをセルフコントロールできるようにするための、思春期における専門家(カウンセラー)との面談はとても有効だと思う。</li> </ul>   |   |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の減少という観点から見れば、危機回避能力は発揮されたといえるが、意識されにくいところに潜む危機には無頓着な傾向が強まっていると感じる。従来の指導に加えて、日常生活全般への対処についても自覚を促す指導を心がける。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に異なる生徒の状況に対応できるよう教師一人ひとりがカウンセリング力を高めるとともに、情報の整理や支援会議を開催しチーム支援体制の一層の充実に努める。</li> <li>・発達に偏りがあると思われる場合 二次障害を防止できるよう、保護者及び医療機関や中学校とも連携を図る。</li> </ul>  |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

|            |  |   |
|------------|--|---|
| 重点項目       | 特別活動（特別活動の充実）  |   |
| 重点課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学校行事の充実</li> <li>・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実</li> </ul>  |   |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に部活動は活発である。多くの生徒が学習との両立をはかり積極的に取り組んでいるが、調整がうまくいかないことから十分な達成感を得られていない生徒もいる。また年度によって部員数の大きな変動があり、活動が十分できない部も見られる。</li> <li>・本校の体育大会は、クラス単位で競技・応援・デコレーションの成果を競う。その過程で、クラス内の団結力も大いに高まるので、生徒には、達成感・充実感を持たせたい。</li> <li>・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちである。日常的に読書に親しむ習慣をはぐくむために、普段から図書館へ来館するようにより一層、教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。</li> <li>・図書館の利用者をより拡大するため、生徒図書委員会の活動を活発化し、読書以外の面においても図書館に対する関心を高めたい。</li> </ul> |   |
| 達成目標       | ①部活動・学校行事（体育大会）に対する、充実度や結果に対する満足度の向上   | ②図書貸出冊数の増加<br>③文化講座と読書会を開催し、図書館への興味関心を喚起する。   |
|            | ①充実度や結果に対する満足度 70%以上   | ②図書貸出冊数 1,848冊以上<br>③文化講座と読書会の開催 年3回  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動登録後、全体の活動内容や計画をきちんと作成・確認すると共に、実態に応じた個人目標を持たせる。</li> <li>・体育大会の練習や準備作業等、計画を立てて活動させる。</li> <li>・アンケートを実施し、充実度や満足度を確認し指導に役立てる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科・英語科と連携して授業時に図書館でビブリオバトルを実施し、図書館の利用機会を増やす。</li> <li>・ホームルーム活動に図書館利用を推奨する。</li> <li>・推薦図書の掲示などの広報活動を積極的に行う。</li> <li>・文化講座と読書会を合計3回開催する。その実施・運営には生徒図書委員を積極的に関わらせ、誇りを持たせる。さらに、学級文庫を生徒図書委員に管理させることで学級の読書活動の推進役であるという自覚も促す。</li> </ul> |
| 達成度        | ①各部活動の実績に対する満足度は82.0%（昨年79.6%）、個人の実績に関する満足度は68.4%（昨年64.9%）で、年々上がってきている。  | ②貸出冊数は、1,572冊（3月1日現在）達成率 85%<br>③第1回文化講座（6月18日）朗読会「～人生に響く私の一冊～」<br>第2回文化講座（11月12日）「やらかし先生～失敗から学ぶ～」<br>読書会（10月22日）ビブリオバトル<br>チャンプ本『アサヒビール30年目の逆襲』  |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に、各部活動が年間活動計画書（休養日含む）を提出し、見通しを持って活動している。各部の部長に対して、計画的に目的意識を明確にして取り組むことを確認した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り、国語科・英語科と連携した ビブリオバトルを図書館で実施。</li> <li>・TKR I『読む』で新聞各紙の比較に取り組んだ。</li> <li>・文化講座では生徒図書委員により新しい形態にチャレンジした。</li> </ul>   |
| 評 価        | B  | B   |
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実績に関する満足度が上がり、参加している部活動の満足度(90.7%)も高い。</li> <li>・体育大会をはじめ、学校行事の準備運営はスムーズに行えた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍の貸出冊数は目標数値には届かなかったが、読書会や文化講座では新企画にチャレンジし、アグレッシブな図書委員会であった。各教科・科目との連携を今年もうまく保つことができた。</li> </ul>   |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡高校の生徒たちが「ビブリオバトル」でどんな書籍を選んだかは、他校生も含めて興味がある。ホームページで公開するといったことができたなら、面白いかもしれない。</li> </ul>   |   |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状に満足せず、より高い目標を掲げて部活動に取り組ませたい。</li> <li>・行事毎の事後アンケートををもとによりよい内容の活動ができるよう計画をたてる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書の充実にもつとめ、書評等を使って図書及び図書館のPRにつとめる。</li> <li>・授業、教科との一層の連携を図る。</li> </ul>  |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

|            |   |   |
|------------|---|---|
| 重点項目       | その他（グローバル・リーダーの育成）  |   |
| 重点課題       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SGH事業の充実・精選</li> <li>・探究活動の進路実現への連結</li> </ul>  |   |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SGHの指定5年目となり、グローバル・リーダーの育成にかかわる活動のさらなる充実・精選が求められる。</li> <li>・SGH事業において、その活動実践を学力向上や進路実現につなげたり、事業の成果を普通科にも広げたりする体制づくりを 図る必要がある。</li> <li>・SGH事業によるグローバル人材育成などの教育活動について、その趣旨や内容などが、普通科生徒や保護者に十分な理解を得られていない状況にある。</li> </ul>                             |   |
| 達成目標       | ①グローバルに活躍したいと考える生徒を育てる。   | ②SGH研究開発『ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成』の主旨浸透を図り、情報発信力を持つ生徒を育てる。 |
|            | ①将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合<br>SGH対象生徒(1・2年及び3年人文社会科学科)の60%  | ②ふるさと富山の魅力を積極的に発信したいと考える生徒の割合<br>SGH対象生徒の60%                  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームルームのSGH化」や「教科のSGH化」を進め、将来のグローバル・リーダーとしての能力を身につけさせる。また、SGH事業の実践を通して、自己発信力が高まるよう指導する。</li> <li>・進路指導部や学年と連携を図り、探究活動や研修が学力向上・進路実現につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。</li> <li>・ホームページや探究通信、オープンハイスクール（8月）などを活用し、その中で探究科学科・SGH事業の内容や魅力について紹介する。</li> </ul> |   |
| 達成度        | ①将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合<br>SGH対象生徒の45%   | ②ふるさと富山の魅力を積極的に発信したいと考える生徒の割合<br>SGH対象生徒の36%                  |
| 具体的な取組状況   | ①異文化理解講座、インターネット交流、グローバルチャレンジ、海外研修などグローバル・リーダーとしての資質を広げる取組みを実施した。   | ②英語の授業、異文化理解講座、課題研究などを通してふるさと富山への理解を深め、外部にも発信した。              |
| 評 価        | B   | C   |
|            | ①昨年度（37%）より、割合が増えた。また、SGH指定後では最も高かった。取組の成果が表れた。   | ②昨年度（28%）より、割合が増えたが、生徒への定着が低かった。                              |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年でSGH事業は終了するが、生徒にとって有益であったと思われる事業は、予算の問題もあるだろうが、是非継続してほしい。</li> </ul>  |   |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SGHの指定は終了するが、この5年間で取り組んできた研究開発における事業をなるべく継続させ、引き続き、グローバル・リーダーの育成を図りたい。</li> </ul>   |   |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）